

観光経済

奥入瀬溪流マイカー規制について

質問 迂回路であった青楓山バイパスである七曲区間に五カ所の危険箇所があり奥入瀬溪流のマイカー規制が休止になったと聞くが、この休止の対応について、見解を伺いたい。

答弁 このマイカー規制は今後の奥入瀬溪流の自然環境保全を目的として、将来全面的に車両の乗り入れ規制を行うため、平成十五年、十六年と試行実施してきたが、昨年十月の七曲区域の道路のり面の崩落、並びに近年における落石等の発生頻度が高く、中止せざるを得なくなった。

県は、こののり面の整備をすることとしており、市としても、この整備が終了次第、マイカー規制実施を働きかけていきたい。

十和田湖の景観について

質問 十和田湖の湖畔林が激減し、湖畔沿いにげげばしい看板や売店、レストランなどが目につき、著しく俗化している休屋地区の景観について、どのように考えているのか伺いたい。

答弁 十和田湖は、森に囲まれた魅力ある町並みづくりが望ましいと考えるが、建物等を建設する際には環境省と相談のうえでの建設であり、今すぐどうこうするわけにはいかないと認識している。

今後、環境省のビジターセンター、それから市が考えている観光拠点施設、これらを整備することになるが、その際には、景勝地に合った、景観に合った建物にしていきたい。

また、民間の方々にもそういう町並みづくりに協力していただけるものと考えられる。



環境・景観等が心配される十和田湖

十和田湖一周マラソンについて

質問 十和田湖への観光客誘致の一つの手法として、十和田湖一周マラソンを実施してはどうか。

答弁 現在、秋田県小坂町と秋田マスターズ陸上競技連盟大館が主催し、毎年六月、秋田県大川岱、和井内銀山の区間を走るマラソン大会が実施されており、また、本年七月には十和田湖を一周する第二十八回十和田湖ウォークが、ウォーキングクラブMTC二十一の主催により、実施されている。

十和田湖一周マラソン等の実施については、青森、秋田、両県にかかわる問題でもあり、交通規制の問題や道路の狭隘、急勾配、急カーブなどのいろいろな地形的な問題があり、現段階では難しいものと考えている。

十和田湖観光について

質問 十和田湖の観光客誘致にどのような計画があるのか伺いたい。

答弁 県内外から一人でも多くの観光客に訪れていただくこと、それから訪れて

いただいたら滞在してもらうこと、そして滞在していただいたらリピーターになっていただくことを基本に、今年度、観光基本計画を策定する。このため、単に十和田湖、奥入瀬溪流の四季の美しさと十和田湖畔の各種イベントを全国的に宣伝するのみではなく、いまま

点として存在している十和田湖、奥入瀬溪流、そして官庁街通り、馬事公苑、それから新渡戸記念館等の観光施設をリンクさせ、面として十和田市の魅力を全国的に情報発信していき

レッツBUYあおもりについて

質問 県内の製造業者が揃くする一味違う商品を県が認定、公表し、その商品を県が購入し、インターネットホームページ等で県産品として全国にPRする「レッツBUYあおもり」について、当市からの出品はあったのか伺いたい。

答弁 本市の誘致企業である株式会社マルゼンの新商品一点を応募し、知事の認定を受けている。

この事業の紹介、説明、PR等については、県が直接、商工会議所等へ行ってもらうというところから重複するようなPRはしていない。

質問 国が三月に示した食料・農業・農村基本計画について、どのように考えるか伺いたい。

答弁 この計画は、明確化された担い手に各種施策を集中的・重点的に行うものであり、また、経営安定対策の対象として認定農業者、集落農家、農作業受託組織等を掲げている。



収穫の終わった田んぼ

農林畜産業について

質問 農林畜産業の振興に結びつく企業誘致についてその考えを伺いたい。

答弁 企業の海外移転が進む中で産業経済情勢から新たな企業誘致は難しい状況にあると考えるが、当市の特産物である農林畜産物のPRに努めるとともに、産学官の連携を推進し、地域資源を活用した事業の創出につなげていきたい。

食料・農業・農村基本計画について

いずれにしても、農業に意欲と熱意を持って取り組み、農業で生計を立てていくことを目指し、集落営農体に参加しないとすれば、経営規模、専業・兼業の区分にとらわれない認定農業者としての道もある。

したがって、農業者が自らの経営に対する考え方、取り組んでいく姿勢が非常に重要と考える。

認定農業者として農業経営を維持しようとする考え方がさまざまなものである。